

2019 年度

都道府県訪問看護ステーション連絡協議会交流会に参加して

2019 年 8 月 31 日(土)

訪問看護ステーションフォレスト熊本 森安 玲子

2019 年 6 月 19 日(水)

品川フロントビル会議室 13:50～16:30

1、報告事項

(1)「訪問看護講師人材養成研修会」

平成 28 年～30 年度厚生労働省委託事業在宅医療関連講師人材養成事業(訪問看護分野)

⇒ 今年度も開催予定

(2)「医師による遠隔での死亡診断をサポートする看護師を対象とした研修会～情報通信機器(ICT)を利用した死亡診断等ガイドラインに基づく研修～」

平成 29 年～30 年度厚生労働省医政局委託事業 在宅看取りに関する研修事業

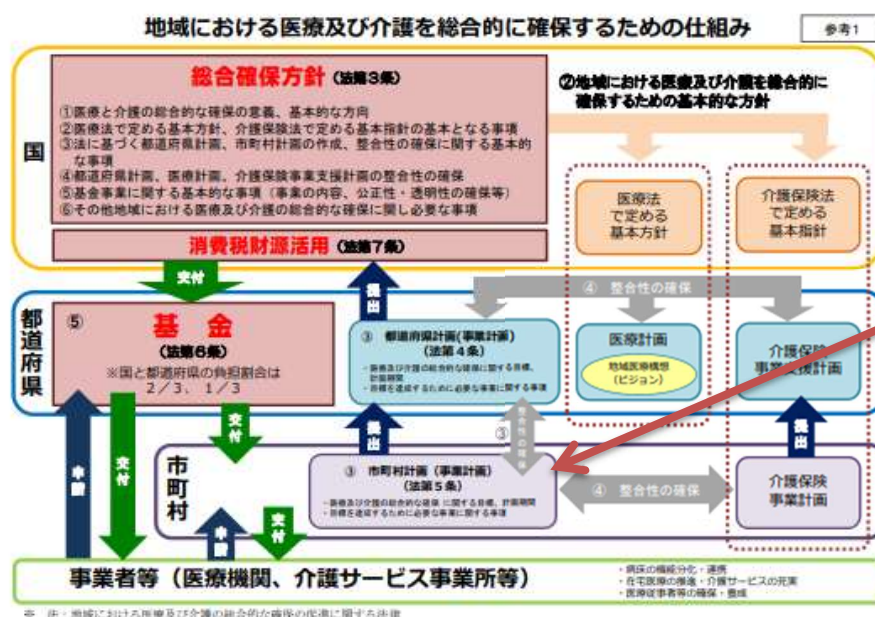
(3)「訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力に関する調査研究事業」

平成 29 年～30 年度全国訪問看護事業協会研究事業

(4)外国人利用者および駐車規制について

2、ブロック会議

【議題提供】訪問看護ステーション連絡協議会の行政単位での組織の役割・機能について明確化し促進することの必要性



- ・在宅計画は都道府県だけでなく、市町村が関与して作成する。従って計画策定の委員会に地域の訪問看護ステーションの代表が参画することがきわめて重要
- ・そのため、訪問看護事業所の組織化は都道府県単位のみならず、市町村単位で組織化をし、政策提言能力の向上に取り組む必要がある。

【実践報告】訪問看護ステーション連絡協議会におけるガイドラインを活用した質の向上のための取り組み

発表者：公益法人沖縄県看護協会訪問看護事業担当 志茂ふじみ

- ①ガイドラインを活用した自己評価を継続して支援することで、事業所評価の必要性を理解し、評価結果より事業運営をかんがえることが可能となった。
- ②一つの統一したツール(ガイドライン)を活用することによって、同じしてんでの評価が可能になった。今後、全国と比較検討ができるようになれば、多くの刺激と示唆を受けられるのではないかと考える
- ③評価表提出率がアップするよう支援したいと考えている
- ④実践報告後のフォローアップの研修等を検討し、継続育成が必要

【九州ブロックの交流会】

全国訪問看護事業協会理事及び熊本県代表 木村理事より

「訪問看護九州ブロック交流会 開催に向けて」の準備・運営の手順書の提示があった。

九州ブロックの検討内容：連絡協議会の組織の強力化について

現状；事務局設置・・・医師会 6県 看護協会 1県 一般社団法人(独立) 1県

会費・・・・・・・・7000、1,200、2,000、2,400、3,000、3,000+地区参加費

加入率・・・・・・・・熊本県が80%で突出していた

強力化のキーワード：

- 1、人が交代しても受け継がれる
- 2、全国の情報を共有できる特典をアピール
- 3、会員に還元する仕組みをつくる(ホームページの見直し*安価でできるコツ)
- 4、サポートセンター、支援センター等々の活用
- 5、医師会、看護協会、行政等々との協働戦線をはかる
- 6、情報提供書、質の評価等々、組織で交渉や取り組みを行う

*訪問看護が健全に機能しないと、地域で暮らす住民の健康と命は守れないと行政や他機関に積極的にアピールしていく

3、齋藤訓子氏(日本看護協会 副会長)より講評

毎回、訪問看護師さんの会議に参加すると、パワーを頂ける。先だって、行政の監査の担当者と話をした時、『いい組織は入った瞬間に分かる、挨拶をする明るい雰囲気、記録の向こうに患者さんや家族が見える等々』いわれていました。訪問看護の皆様が地域での暮らしを支えておられる、その向こうに地域で暮らす方々を感じました。今後の皆様の、ますますのご健勝を願ってやみません。ありがとうございました。

都道府県訪問看護ステーション連絡協議会交流会に参加して

熊本県の訪問看護連絡協議会のまとめりや活動の内容など、改めて充実している事が再認識できました。その組織文化は長年かけて歴代の管理者の方々が大切に培われてきた結果と思われます。熊本県も、新規のステーションが増え、老舗のステーションは管理者交代等々の過渡期です。しかし、連絡協議会のビジョン・ミッションを再確認しながら、熊本モデルと提言できるよう、基盤づくりを確立し、「頼れる・つながる・ささえあう」の熊本県訪問看護ステーション連絡協議会の活動を推進していきたいと思います。研修に参加させていただき、ありがとうございました。

